

「手記」 大矢佐智子 60歳

私は6年前頃から人差し指が痒くなり、たまりませんでした。それが段々と他の指まで痒くなり近くの病院へ行きました。検査をしてもらってもアレルギーと言われ、これといった原因が分かりませんでした。薬を戴いてしばらく続けると少し良くなり、また効かなくなるの繰り返しで、他の所まで広がってきました。手はひび割れのようになり、痛くて痒みも伴い、年中割れている状態でした。あちらこちらの皮膚科を廻りましたが、どこもステロイドを出されます。仕事が糸を巻く作業のため、割れた所に糸が入るととても痛く、不自由でした。また、家で何をするにも年中、中に綿の手袋、上に炊事手袋をはめておりました。しかしその内に段々上のほうに上がってきて、ついに背中の方まで痒くなってきました。病院に行くと薬は段々強められ、「これで良いのか？」と心配しつつも薬を手放せない日々でした。皮膚も硬く自分の手ではないようになり、夕方には熱をもって痛みと腫れが生じるようになったために仕事を辞めてしまいました。どこか治る病院があれば入院してでもと思ったほどでした。

ある日、病院へ行く途中で知らない人に声をかけた時に、ふと私の手を見て驚かれ、不思議なことにその方も以前に私のような手だったそうです。その方の話を聞いているうちに松本医院を教えてくださいました。嬉しくて、早々に次の日に行きました。

先生に「治してあげる」と言っていただき、気持ちが晴れました。薬を戴き使用していると、徐々に皮膚がパリパリになり魚のウロコのようになっていました。「これは今までのステロイドの影響を全部出してしまわないと治らない。」と言われました。この間苦労しました。もう一度前のステロイドに戻りたいと思ったことが度々でした。本当に治るのかなあと思っているうち5ヶ月程過ぎた頃から、痛みや痒み、ひび割れも良くなってきました。また、手の熱も出なくなり、腫れも引き、自分の皮膚が少しずつ見えてきました。長年苦労してきたのが嘘のようです。

先生にお会いしていなければ、今でもステロイドを使っていたと思います。松本先生に巡り合わせて頂いたことを本当に感謝しております。有難うございました。